進捗状況報告シート

（2010年度・大学）

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

Ⅰ．評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性
	(KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

Ⅱ．自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。
目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
１．研究者養成については、大学院生の研究活動支援の強化と他大学院生・外国の大学大学院生との連携教育プログラムを海外の他大学大学院研究科との単位互換制度や連携教育・研究交流協定を増やす。	→他大学院生・外国の大学大学院生との連携教育プログラムを海外の他大学大学院との単位互換協定の締結、連携教育・研究交流協定。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》　※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目7.0.1	（現状説明） 学部教育の活性化と質的向上、教員の国際的研究の推進および経済界と共同で経済学部が社会貢献を進める上で、戦略的意義を有するものであるとし、経済学部全体で目標設定を行っているが、研究科としては、研究員や大学院生の研究の域を広げる上でさらに必須となっており、個々の教員が認識している。 連携教育、協定の締結は全学的な国際交流の基本方針に準拠している。
☆	小項目7.0.2	（現状説明） １．フランス、リール第一大学と交流を持続しており、交換留学の受け入れを行った。９月７日～１０月１０日まで、パリ東・マルヌ・ラ・パレ大学のDominique Redor氏を客員教員(A)として迎え、経済学セミナーで発表。 教員の研究や発表による交流は盛んであり、学生を引率した交流も行われている。また、大学院生による海外研究、調査の指導は指導教員単位にて行っている。
☆	その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価（現状分析）が可能なため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学研究科】				単位	2005	2006	2007	2008	2009	備　考
指標1	国際交流協定締結機関数			機関	―	―	―	―	―	
指標2	国際交流協定締結国数			国	―	―	―	―	―	
指標3	海外からの学生の受け入れ	国　　数		国	―	―	―	―	―	
		外国人留学生	正規	人	1	0	4	4	3	
			交換	人	3	2	2	2	1	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	2.1	0.0	9.1	8.2	6.8	外国人留学生（正規）÷在籍学生数
			交換	%	6.3	4.5	4.5	4.1	2.3	外国人留学生（非正規）÷在籍学生数
		その他（セミナー等による受け入れ）		人	―	―	―	―	―	
指標4	海外への学生の派遣	国　　数		国	―	―	―	―	―	
		人　　数	長期	人	0	0	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	人的国際学術研究交流（受け入れ教員数）		長期	人	0	0	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
指標6	人的国際学術研究交流（派遣教員数）		長期	人	0	0	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
指標7	国連ボランティア（UNV）の参加者数			人	―	―	―	―	―	

注）正規、交換について
　正規とは学位取得目的（大学院生は特別学生を含む）。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む
注）長期、短期について
　指標4：1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。
　指標5・6：1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価　（1）】効果が上がっている事項

小項目7.0.1	
☆ 小項目7.0.2	
その他	

【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策

小項目7.0.1	
☆ 小項目7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価　（2）】改善すべき事項

	小項目7.0.1	
☆	小項目7.0.2	
	その他	

【次年度に向けた方策（2）】改善方策

	小項目7.0.1	
☆	小項目7.0.2	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他 （自由記述）	

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】
○フランスの大学との交流が進められており評価できます。院生の数や教員の専門分野の関係もあるのでしょうが、将来的には他の国の大学との交流も目指すことが望まれます。

【学内委員】
○小項目7.0.1の説明においては、まず（方針）として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。
○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思います。
○改善事項について何らかの具体的な対応策が示されるべきでしょう。
○国際交流の重要性を個々の教員が認識している点は評価できますが、特定６項目データからその数的充実は読み取れません。個々の教員が認識するだけでなく、方針が明示され、院生をはじめとする構成員の意識向上が期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ 1.大学院生による国際レベルでの研究活動を行うこと。2.外国の大学院との連携教育を行うことの2点を本研究科の方針としている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

7.0.0.S1	協定校と相互交流数（学生・教員）
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

＜個別的な指標＞